

レ・クレドール ジャパン会報誌 “キー・ニュース”

*Les Clefs d'Or Japan*

*Key News*



2025年 第75号

発行: 今泉愛子

編集: 嵯峨崎のぞみ 米谷紗央里 増田悟

Website : [lesclefsdorjapan.com](http://lesclefsdorjapan.com)



Les Clefs d'Or Japan



[esclefsdorjapan](https://www.instagram.com/lesclefsdorjapan)

# 13<sup>th</sup> UICH ASIAN CONGRESS 2025 BORACAY, PHILIPPINES

文: 小嶋しのぶ

2025年10月23日～27日にフィリピン ボラカイ島にて開催されました 第13回レ・クレドールアジアコンGRESSに参加してまいりました。

レ・クレドールジャパンからは、レ・クレドールジャパン・プレジデントのグランドハイアット東京 今泉氏、マンダリンオリエンタル東京 Tiwari氏、グランドハイアット東京 嵯峨崎氏、パレスホテル東京 端谷氏、そしてホテルニューオータニ 小嶋の5名。日本コンシェルジュ協会からは、フェアモント東京 上田氏、ホテルニューオータニ 黒川氏、SORANO HOTEL 戸谷氏、ザ・ペニンシュラ東京 竹川氏、コンラッド東京 西川氏の5名。合計10名で参加いたしました。今回のアジアコンGRESSにはアジア・オセアニア地域の国々およびその他の地域からの参加者もあり、ローカルメンバー56名を含め、200名ほどが参加いたしました。



## 1日目 到着 & オープニングセレモニー

10月23日 プレジデントの今泉氏は1日早く現地入りし、他のメンバーは23日に到着いたしました。空と海の青さが眩しいほどの好天の中、貝殻の首飾りで歓迎を受けたのち、ボートでボラカイ島へ移動。ホテルのプライベートビーチに到着した際にはダンスで歓迎していただき、コンGRESSへの期待感に心が弾む思いがいたしました。

同日夜のオープニングセレモニーではフィリピンの伝統的な踊りとカトリックの文化が融合したサントニーニョのダンスが披露され、華やかな雰囲気での開会となりました。



### 2日目 プレジデントミーティング & Andy Pongco Day of Service CSR活動

10月24日 午前にプレジデントミーティングが行われ、今泉氏が参加いたしました。  
午後には3つのグループに分かれて下記のCSR活動を行いました。

Yapak Elementary School (小学校訪問)

Medical Mission at Ati Community (アティ族居住地区での医薬品等の配布)

Mangrove Tree Planting (マングローブ植樹)

先住民族であるアティ族の人々はボラカイ島のリゾート化の波に多大な影響を受け、経済的苦難を受けていること、また、リゾート開発によって破壊された環境の回復・保護のために植樹の取り組みがなされていることなど、華やかで楽しい面のみならず、ボラカイ島の持つ多様な面を知ることができたことは貴重な体験であったと思います。



### 3日目 エデュケーションデー ゾーンディレクターおよびアジア各国プレジデントによるプレゼンテーション

10月25日 午前はゲストスピーカー2名による講演。午後には各国プレジデントより活動報告がありました。

一人目のゲストスピーカーであるシャングリ・ラグループ 人事部門人材開発部門バイス・プレジデントのJude Medida 氏からは、ホスピタリティの核となるフィリピンの3つの概念 Lakbay (to journey), Tunghay (to witness), Ugnay (to connect)、および、フィリピンにおけるホスピタリティと文化的価値観についての紹介があり、アジアのホスピタリティの考え方と感じ方、プロフェッショナルなネットワークの構築や生涯学習・業界との関係の維持の重要性などについてお話しいただきました。



二人目の講師であるIHGラグジュアリー＆ライフスタイル アメリカ部門・ブランドエクスペリエンス＆デリバリーマネージャーのBobby Gonzalez氏からは、ホスピタリティには共感力と個別化が重要であり、AIなどのテクノロジーは“補完ツール”として活用することを推奨するとのお話がありました。また、現代ホスピタリティ業界の課題についてのグループディスカッションを行った際には、国が違って共通した課題があり、興味深く感じられました。

午後にはプレジデントによるプレゼンテーションが行われ、各国の活動内容や取り組みなどについて知る良い機会となりました。

### 4日目 現地視察アクティビティー&ガラディナー

10月26 午前中はあいにくの雨天でしたが、ボラカイ島の観光資源であるビーチ・アクティビティの視察と体験を行いました。パラセーリングでは上空より海と島々の景色を堪能し、ヘルメットダイビングでは熱帯魚が泳ぐ水中の美しさを体験することができました。



ガラディナーがクリムゾン リゾート&スパボラカイのボールルームにて開催されました。ボラカイ市長 Hon. Mayor Floribar Bautistaによるメッセージに始まり、Malay Tourism Officer Dr. Felix G. Delos Santos Jr.からのメッセージ、UICHレ・クレドールインターナショナルの前プレジデントMr. Randy Santos、および、レ・クレドール フィリピン プレジデントのMr. Jerome Uyからのメッセージと続き開会。レ・クレドール フィリピンではホテルの仕事について学ぶ学生へ奨学金の支給を行う活動をしており、そのスカラーシップについての説明、および、奨学金を受給する生徒の紹介と奨学金貸与式が行われました。未来のホテルエへの投資は後進育成の在り方のよい一例であると感じました。ディナーの間、音楽の演奏や伝統的なダンスの披露もあり、皆がそれぞれにコンGRES最後のプログラムを楽しんでいる様子が見られました。



### 5日目 出発

10月27日。4日間の日程を終えた最終日、ボラカイ島の精霊がコンGRESの終了を嘆いたためか、午前中は激しい雷雨となり、あちらこちらに落雷の音が鳴り轟いていましたが正午過ぎには天気が落ち着き、ボートにてボラカイ島を出発。世界各国からの仲間との充実した時間に思いを馳せながら各々が帰途につきました。

コンGRESの主要テーマであるLAKBAY(旅すること)、TUNGHAY(見ること)、UGNAY(繋がること)を体験することができた5日間でした。



## Welcoming New Member to Les Clefs d' Or Japan

2025年11月の審査委員会において、2名の新しいメンバーを承認いたしました。  
インターコンチネンタルホテル東京のチーフコンシェルジュ、フィリップ・ミュラー氏と、ホテルグランヴィア京都のアシスタントチーフコンシェルジュの兼田真弓氏をお迎えいたしました。お2人からのご挨拶メッセージをご紹介します。

### Mr. Philippe Muller

#### 『次世代へ継承とリーダーシップ』

この度、レ・クレドール ジャパンに再び加わる機会を頂き、大変光栄に存じます。1997年の初加盟以来、尊敬する先輩方、多くの仲間の皆さまから学び得た経験は、私のコンシェルジュとしての原点であり、今も支えとなっております。

現在、ANAインターコンチネンタル東京においてチーフコンシェルジュを務める中で、私が最も重視しているのは「次の世代を育てること」です。コンシェルジュという職業は、一人の技量だけで成り立つものではなく、仲間と協働し、知識を共有し、互いに磨き合うことで初めて本質的な価値を生み出します。

今回の再入会を、後進への恩返しと考え、若いコンシェルジュがより大きく羽ばたける環境づくりに貢献してまいりたいと存じます。信頼、誇り、そして挑戦する心を、次世代のメンバーへつないでいくことが私の使命です。

レ・クレドールの精神を共に守り育てていけることを心より楽しみにしております。



### Ms. Mayumi Kaneda

この度、レ・クレドール ジャパンのメンバーとして承認いただき大変光栄に存じます。

承認に至るまでコンシェルジュチームの仲間をはじめ、多くの方々にサポートをしていただきこの日を迎える事ができましたこと、心より感謝しています。

こうした皆様とのつながりが、私のコンシェルジュとしての大きな原動力となっています。

地元・京都でコンシェルジュとして歩みはじめてから、10年以上が経ちました。多くのお客様との出会いや貴重な経験に恵まれ、日々夢中で仕事に向き合う中で、レ・クレドールへの思いが一段と強くなったのは、2019年にシンガポールで開催されたアジアンコンGRESに参加した時のことでした。

海外の第一線で活躍する同じ志を持つコンシェルジュの姿に触れ「私も日本のおもてなしを国内外の多くのお客様にお届けできるコンシェルジュになりたい」という気持ちが一層高まったのを今でも覚えています。



これまでお客様からいただいた温かいお言葉の数々は、私にとって何よりの宝物です。

私自身が経験し感じてきたコンシェルジュという仕事の魅力を、レ・クレドール ジャパンを通じて一人でも多くの方に知っていただき、コンシェルジュを目指す方々の助けとなれば嬉しく思います。

日本にお越しいただくお客様が家族や友人に会いに来るような気持ちで「また来たい」と思っただけのような旅のお手伝いができるよう、これからもより一層精進してまいります。

# CSR 活動

## Keys For Trees Project

文: 森 マリーアントワネット

11月12日、レ・クレドール・ジャパンは、グローバルCSRプログラム「Keys for Trees」の一環として、能登半島にて2回目となる植樹活動を実施いたしました。

昨年での初開催に続く今回の訪問は、環境保全への継続的な取り組みと地域コミュニティへの支援を改めて示すものとなりました。

本活動は、加賀木材株式会社の増栄社長をはじめ、同社スタッフの皆様、そして能登森林組合のご協力により実現したもので、2023年の地震前に行った訪問をきっかけに育まれた関係性をさらに強固なものとしています。

能登空港到着後、増栄社長より、持続可能な林業と長期的な森林再生を目指す同社の取り組みについてご説明いただきました。その後、地域の文化を象徴する「能登ヒバ」の苗木50本を植樹。穏やかな環境と恵まれた天候の中での作業は、CSR活動の長期的価値を改めて実感する、意義深いひとときとなりました。



また、昨年植樹した記念樹の成長を確認し、その健やかな姿から、環境活動を継続することの重要性を再認識いたしました。午後は輪島市を訪れ、地域の伝統工芸に触れるとともに、地震の被害から立ち上がる現地の状況を視察しました。周辺の市場が大きな被害を受ける中で奇跡的に残った「日吉酒造店」では、震災を乗り越えた歩みを伺い、地域再生への強い思いを感じました。さらに「輪島キリモト」では、伝統的な漆器づくりの精緻な工程を見学し、能登の文化が持つ深い価値を改めて理解する機会となりました。

復旧は着実に進んでいるものの、観光の回復にはまだ時間を要しています。現地を自らの目で確かめたことは、私たちコンシェルジュにとって大変貴重な学びとなりました。レ・クレドール・ジャパンは、今後も能登地域の復興と発展に寄り添い、環境保全と文化継承に寄与するCSR活動を継続してまいります。



# 定例会報告

文：嵯峨崎のぞみ

## 11月

11月の定例会は、9201Galleryにて行われました。

第一部では、9月の福井県視察のプレゼンテーションがありました。

また前日の11月19日にコンラッド東京のフレンチレストラン『コラージュ』で開催された素晴らしいアニバーサリーディナーの報告がありました。ディナーにはスウェーデンのメンバーのSteve Watson氏, Adam Von Mentzer氏が参加してくださり、より一層お互いの関係を深める時間となりました。その後近況報告を行いました。

第二部では、株式会社 ホワイトシップ様の創造性開発プログラム「EGAKU」のワークショップに参加致しました。講師は、9201Gallery、Director & Curator Ms. Yoko Maria Nakamuraが担当してくださりました。9201Galleryは、(株)White Ships が、アーティスト矢澤邦彦氏のビジョンを表現・体現する場として創設したギャラリーです。具体的にはアートを体験するものと捉え、多様で不確実な未来を生きる力をつけるための体験研修型のプログラム【EGAKU】を提供している。今回はその一部をグループワークで体験させていただきました。とても興味深く、チームビルディングなどでも取り入れたいアクティビティだと思いました。

## 12月

12月の定例会は、京都の上七軒歌舞練場にて行われました。普段は入れない貴重な経験となりました。

第一部では、活動報告と1月に開催予定の共同セミナーの進捗について共有がありました。また、新しく仲間に加わった兼田氏、ミユレー氏と、パークハイアット京都でトランスファーマーメンバーのハコボ ガルシア ボバディージャ氏も参加しており、いつもよりフレッシュな気持ちになる時間でした。

また、レ・クレドール ジャパンから初めてレ・クレドールアワードにノミネートされた竹内秀太氏も参加しており、アワードノミニーとしてのプロセスのお話をうかがいました。

第二部では上七軒のお茶屋さんの一つ、勝ふみの山口さちみ様より花街についてのお話と上七軒歌舞練場館内案内をいただきました。資料を使っでの説明は非常に分かりやすく、勉強になる時間でした。

歌舞練場はとても艶やかで、映画『国宝』にも登場しており、感慨深い時間となりました。

